

中学校第2学年 英語科学習指導案

日時 平成29年9月26日(火) 2校時
指導者 教育センター所員 金丸 大樹

単元名 Unit 4 Homestay in the United States
(NEW HORIZON English Course 2 東京書籍)

1 単元について

- 本単元は、他国でのホームステイを題材とし、自身とは異なる考え方や習慣を自身の立場からどのように捉えるかについて、考えを深めることをねらいとしている。最初のページでは、ホームステイをするときの心構えが説明され、その後、ベッドメイキングや食事などの日常生活の場面で、ホームステイを行う時に経験するであろう事柄が扱われている。さらには、ホームステイ先の家族間における習慣の違いを話題にしている部分もあり、自分の家庭と友達の家での習慣といった身近な内容から、日本と他国の習慣といった国際的な内容まで、様々な視点から文化の違いを考える契機となる単元である。

言語材料としては、必要性を表す **have to**, **don't have to**, 意志や未来のことを表す **will**, 義務や禁止を表す **must**, **mustn't** を扱う。これらの言語材料は、本単元のゴールであるスキット作りにおける対話において役立つと考えられる。

- 本学級の生徒は、活発に授業に取り組むことができ、声を出して発音したり、友達と協力しながら学習したりすることが好きである。事前の質問紙調査によれば、「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」という項目に対し、80.0%の生徒が肯定的な回答だった。このことから、英語が日常生活でも身近なものであり、社会の中で生活していくために必要であるという意識をもっていることが伺える。そのための学習法に関して、「英語を勉強する上で大切なこと」は何かという質問には、「問題をたくさん解く」(62.9%)、「単語をたくさん覚える」(97.1%)と回答した生徒が多いことから、多くの生徒が、語彙や文法などの知識を増やすことが重要であると考えていることが伺える。その一方で、「英語でたくさん会話をする」(45.7%)、「自分の意見や考えをたくさん書く」(31.4%)などといった表現することが大切だと考える生徒が比較的少なかった。

本単元の授業を通して、学習した語彙や表現を、実際のコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて使用させ、自分が話した英語が相手に通じた喜びや、英語で表現することの楽しさを感じさせたい。

- そこで、教師とのやり取りやペアでの活動を取り入れながら、即興で話す力を育成する。即興で話すためには、第1段階として、既習の表現をその場で選択して使用することが必要である。これにより、自身の態度を示し、対話をスムーズにすることができる。そして、第2段階として、状況に応じて、自分で英文を工夫しながら話すことが必要になる。これにより、伝わりやすいように表現を変え、相手との意思疎通を深めることが可能になる。本単元では、第1段階の既習の表現をその場で選択して使用できるようになることを目指す。スキットのテーマは「ホームステイしている留学生の悩みに答えよう」である。一部に即興で話す部分を取り入れ、留学生とホストファミリーの母親、或いは父親や兄弟姉妹などの立場で、対話の流れに応じて、既習の表現の中から選択しながら発話できるようになることを本単元のゴールとする。

このために、本単元では、場面に応じて、つなぎ言葉等をその場で選択しながら対話させる活動を仕組む。帯活動として、教科書の基本文や本文の内容に関する対話につなぎ言葉やその他の文を付け加える活動を計画する。また、教科書の本文の内容理解のために、事実発問と推論発問を中心に行いながら、本文の場面のイメージを膨らませる。その上で **Output** 活動として、本文の場面のイメージに沿って、つなぎ言葉や人物が言いそうな他の発話を加える活動を

行う。こういった活動を取り入れながら、登場人物が、設定された場面の中でどのような発話をするかについて思考、表現させることが、対話において即興で応答する力を育成することにつながると思う。

2 単元の目標

- (1) 間違いを恐れずに、対話しようとする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- (2) 学習した表現を使用しながら対話する。 【外国語表現の能力】
- (3) 説明や対話が行われている本文の場面を理解する。 【外国語理解の能力】
- (4) 助動詞、及び、have to を用いた文の構造を理解する。 【言語や文化についての知識・理解】

3 本単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
○間違いを恐れず、つながぎ言葉を工夫して話している。	①本文に、つながぎ言葉やその他の発話を加えて対話できる。 ②場面に応じて、適切な表現を用いて対話できる。	○説明や対話が行われている本文の場面を読み取ることができる。	①助動詞や have to を用いた文を理解している。 ②自国とは異なる習慣を理解し、受け入れる姿勢をもっている。

4 指導と評価の計画

時間	学習活動	教師の指導・支援	評価規準と評価方法
1	1 単元の内容と進め方を知る。 2 つなぎ言葉やその他の反応について知る。 3 have to / don't have to を用いて必要性について述べる表現を学ぶ。 4 (帯活動1) 場面設定を考え、基本本文を対話にする。	○ホームステイに関する Teacher Talk, 単元計画を提示する。 ○ワークシートを用いて、表現を確認する。 ○パワーポイント提示資料を用いて、様々な場面での目標表現の使用を紹介する。	イ① ワークシート
2	1 (帯活動2) 基本本文を使った対話を作成する。 2 Teacher Talk 「ホームステイのルール」 3 Part 1 本文に書かれている説明を理解する。 ○発問に答えながら本文に書かれている場面や状況についてのイメージを膨らませる。 4 本文の内容を対話形式にリメイクする。 ○ホストファミリーとホームステイする学生の立場で、対話を作る。	○発問により、内容理解を助ける。 ○家の中のイメージを豊かにするための思考を助けるワークシートを準備する。 ○うなずき、繰り返しの表現を用いるよう声掛けを行う。	イ① ワークシート
3	1 (帯活動3) 基本本文の対話に自由にセリフを挿入する。 2 Teacher Talk 「ホームステイのルール」 3 Part 2 本文の対話が行われている場面を理解する。 ○発問に答えながら本文に書かれている場面についてのイメージを膨らませる。	○発問により、内容理解を助ける。 ○イラストにより、人物の位置関係をイメージさせる。	ウ ワークシート

4 (本時)	<p>1 Teacher Talk 「ベッドメイキング」</p> <p>2 (帯活動4) 本文の内容に関する対話を、つなぎ言葉を使いながら行う。</p> <p>3 Part 2 本文を、キーワードを基にして対話を再現する。</p> <p>4 他の場面での発話を考え、オリジナルの対話文を作る。</p>	<p>○絵やキーワードを提示しながら発問を行い、本文の内容を想起させる。</p> <p>○帯活動で扱っているつなぎ言葉が使えることを確認する。</p>	イ① ワークシート
5	<p>1 Teacher Talk 「家族の食事」</p> <p>2 must, mustn't を用いて義務や禁止について述べる表現を学ぶ。</p> <p>3 (帯活動5) 場面設定を考え、基本文を対話にする。</p>	○電子黒板での提示資料を用いて、様々な場面での基本文の使用を紹介する。	イ① ワークシート
6	<p>1 (帯活動6) 基本文の対話にセリフを挿入する。</p> <p>2 Teacher Talk 「子供の教育」</p> <p>3 Part 3 本文の内容を理解する。 ○発問に答えながら本文に書かれている場面や状況についてのイメージを膨らませる。</p> <p>4 留学生の悩みに対して、納得できるアドバイスをする。</p>	<p>○発問により、内容理解を助ける。</p> <p>○うなずきや同意の表現が使えることを確認する。</p>	ウ 観察
7	<p>1 (帯活動7) 基本文の対話にセリフを挿入する。</p> <p>2 Teacher Talk 「お風呂の習慣」</p> <p>3 Part 4 本文の内容を理解する。 ○発問に答えながら本文に書かれている場面や状況についてのイメージを膨らませる。</p> <p>4 留学生の悩みに対して、納得できるアドバイスをする。</p>	<p>○発問により、内容理解を助ける。</p> <p>○相手の気持ちを落ち着けたり、励ましたりする表現に着目させる。</p> <p>○うなずきや同意の表現が使えることを確認する。</p>	ウ 観察
8	<p>1 Teacher Talk 「トイレの習慣」</p> <p>2 単元ゴール「ホームステイしている留学生の悩みを答えよう」のスキット作りの準備をする。 ○映像を見ながら、異文化の中で生活することについて考える。 ○留学生がホームステイ先でもつ悩みについて考える。 ○スキット作成に取り掛かる。</p>	<p>○異文化と触れることに関する映像を提示する。</p> <p>○生徒とのやり取りにより、家庭での様々な習慣を紹介する。</p> <p>○スキットの進め方を説明する。</p>	エ② 観察・ワークシート
9	<p>1 単元ゴール「ホームステイしている留学生の悩みを答えよう」のスキット作りをする。 ○スキットを作成し、なりきり音読をする。</p>	○机間指導し、個別に声掛けをしてスキット作りの支援を行う。	イ② ワークシート
10	<p>1 単元ゴール「ホームステイ留学生に日本の家の習慣を教えよう」のスキットを作る。</p> <p>2 本単元の振り返りを行う。</p>	○活動の講評を行う。	ア 観察 エ① 後日ペーパーテスト

5 本時の目標

場面に合った英文や表現を使用して本文を膨らませることができる。

【外国語表現の能力】

6 指導の視点

即興でやり取りを行う力を育成するためには、前述のように、2段階の指導を行う必要がある。本単元では、第1段階の既習の表現をその場で選択して使用できるようになることを目指す。

本時においては、つなぎ言葉の使用について、以下の2点の視点を挙げる。

- ①各活動は、その場でつなぎ言葉を選択しながら話す力の向上に効果があったか。また、その他に考えられる工夫はあるか。
- ②各活動の配列は、その場でつなぎ言葉を選択しながら話す力の向上のために効果的なものとなっていたか。また、その他に考えられる工夫はあるか。

7 本時の展開

段階	学習活動	形態	教師の指導・支援	評価規準
導入	1 挨拶をする。	斉		
	2 Teacher Talk「ベッドメイキング」を聞きながら教師とやり取りを行う。	斉	2 ベッドメイキングについて、質問、応答させる。	
	3 帯活動4を行う。	ペ	3 教師が机間指導し、チェックする。発表を募り、シェアリングを行う。	
展開	4 教師の発問に答えながら、本文の内容を想起する。	斉	4 イラストやキーワードを提示する。	
	5 本文の再現活動 (1)ワークシートを使って本文を再現する。 (2)教科書で確認する。 (3)再度、ワークシートを使って本文を再現する。 (4)本時の目標を確認する。	ペ	5 活動を助けるワークシートを配布する。 (1)本文と全く同じでなくてもよいことを伝え、1分間計時する。 (2)発話の趣旨があていばよいことを伝え、30秒間計時する。 (3)1分間計時する。 発表を募り、シェアリングを行う。 (4)本時の目標を示す。	
	咲とウィルソンさんの対話をふくらませよう。			
	6 オリジナルの対話を作る活動 (1)人物が言いそうな発話を考えて挿入する。 (2)各部分の対話ができたら教師に発表する。 (3)作成した対話文をワークシートに記入する。	ペ	6 生徒の自由なイメージを基に発問させる。 「咲とウィルソンさんはどんなことを言うだろう」 (1)つなぎ言葉等のワークシートを参考にしてよいことを伝える。 (2)各ペアの発表を聞き、コメントを行う。	イ① (ワークシート)

まとめ	7 振り返り 自己評価シートに記入しながら、本時の成果と課題を振り返る。	個	7 良かった点と課題点に注目させるよう声掛けを行う。	
	8 まとめ ・教師の講評を聞く。 ・次時の学習内容を知る。	斉	8 教師から見た成果と課題を生徒に伝える。	

8 評価

評価規準 (ワークシート)	場面に合った英文や表現を使用して本文を膨らませることができる。 【外国語表現の能力】		
判定基準	A	B	C
	場面に合った英文や表現を8文以上挿入できている。	場面に合った英文や表現を5文以上挿入できている。	Bに満たない記述
手立て		どんな場面を想定しているかにより、表現を確認する。	どんな場面かを確認し、本文と一緒に読む。